

カリフォルニアには広大なレッドウッドの森があります。この森は幾度となく深刻な山火事の被害にあってきましたが、決して消滅することなく何千年もカリフォルニアの土地に広がっています。そのレッドウッドの生命力と存在感には驚きと感動を覚えます。そしてその姿は、神様の言葉や愛や導きも同じように決して耐えることなく常に私たちに示され続けるのだということを思い起こさせます。

今日の聖書にはヘロデが洗礼者ヨハネを殺害したという悲劇が描かれていますが、ここにも人間への変わることない神の愛と真実の姿が証されています。この箇所をよく読むと、ヘロデはヨハネを「正しい人、聖なる人と知った」と記されており、さらにヘロデは「ヨハネの教えに喜んで耳を傾けていた」とも記されています。このような記述を見る時に、今日の聖書の出来事は「ヘロデがヨハネを捕らえた」出来事ではなく「ヨハネがヘロデを神の言葉と愛で捕らえ、導こうとされた出来事」だと受け止められます。神様は罪深い王であろうが誰であろうが全ての人を愛し、悔い改めと救いに導こうとしておられるのだと教えているのです。

そしてヘロデは今日の箇所の初めで、イエスの噂を聞き「私が首をはねたあのヨハネが生き返ったのだ」と驚きの声をあげています。そして、その驚きはあのイエスを裏切って逃げ出した弟子たちもまた、主の十字架と復活の出来事を通して深く経験したものだのです。マルコ福音書は、ヘロデによるヨハネの殺害もイエスの十字架という悲劇も、神の導きの「終わり」だったのではない、その人間の罪にも関わらず神の愛と恵みは決して絶えることはなかったのだということを驚きをもって伝えているのです。

人間の弱さや罪深さにもかかわらず神の愛と導きは決して絶えることはない、というこの驚きは今を生きる私たち一人一人の人生にも、また教会の歩みにも満ちています。私たちキリスト者はその神の恩寵、神の真実にこそ希望を置き、それを宣教の力として歩んでまいりました。

今の社会がどんなに悲惨に見えようが、先行きが見えない暗闇の中にあろうが、また私たちがそれだけ弱さを覚えようが、罪にまみれようが、決して変わることも失われることもない私たちへの神の真実があることを共に信じ、これからまた新しい歩みを皆さんとご一緒にこの伊丹教会で続けていくことができると願います。